

農業遺産ロングトレイルを通じた農耕文化や歴史的 ストーリーの掘り起こしとその多面的価値の評価研究

九州大学大学院 農学研究院
附属国際農業教育・研究推進センター
研究代表者 野村 久子

本研究では、国東半島・宇佐地域世界農業遺産における「農文化システム」の中に息づいているトレイルを歩き、魅力的な農文化と農業の関わりを知り、体験するというツーリズムを展開することで、地域振興へつながる新たな観光モデルを提唱し、そのための基礎研究を行った。

小課題 1：トレイルを通じた、農文化と世界農業遺産システムの関わりストーリーの掘り起こし

阿蘇たにびと博物館 梶原宏之
陳怡靜

概要（小課題 1-1）

小課題 1-1 では、国東半島・宇佐地域世界農業遺産における農文化ストーリーを掘り起こすことを目的として調査および検討を行なった。調査対象地域を国東市国東町綱井地区に設定し、綱井地区のフィールドワークを通して環境と生業の関わりを調査した結果、かつて「嫁にやるとも綱井にやるな」と唄われた寒村が、新たな溜池を整備していくなかで「嫁にやるなら綱井へおいで」と言えるまで収量を上げられたことが分かった。そこで実際に綱井へ嫁に来た女性たちがどんな思いでいたかを探るための婚姻に関する民俗学調査を行ない、それを基に記憶のフットパス・マップを制作した。その結果〈歴史的事実〉のみならず〈感情移入的挿話〉が重要な要素となろうことが指摘された。

概要（小課題 1-2）

小課題 1-2 では、国東半島・宇佐地域世界農業遺産を訪れる外国人訪問客らへ対し、どんな情報を発信できるか検討するため 2 つの調査を行なった。一つは、すでに開かれているウォーキングイベントや宿泊施設を実際に利用して、参加した外国人たちから問題点等をヒアリングした。もう一つは、写真 SNS の代表的アプリであるインスタグラム上へアップロードされている国東半島に関する情報を収集し、それらを世界農業遺産の 5 つの構成要素に沿って分析することで、外国人旅行者たちの目に興味深く映っている項目、また逆に映っていない項目について検討を行なった。その結果、特に農文化に関する風景が注目されていることが分かり、また伝統知識については気づかれておらず、農作物や生物多様性についても改善の余地が充分あることが指摘された。

小課題 2：トレイルの持つ多面的な経済的価値評価

九州大学農学研究院 講師 野村 久子
教授 矢部 光保

概要（小課題 2-1）

小課題 2-1 では、国東半島・宇佐地域世界農業遺産の 5 つの構成要素である「文化的景観、伝統的農業、農文化、食、生物多様性」といった多様な価値が存在するトレイルを経済的に評価し、この研究により一般の人々がトレイルに認めている価値を明らかにする。そして、その結果に基づいて、フットパスを含む地元の資源利活用、そして維持・継承のための方策を提案することである。そこで、維持・継承の活動支援としてウォークの際に募金あるいはボランティアを募ることとし、GIAHS 関連の活動に対する潜在的な支援の可能性を検討した。調査地域は、国東市国東町旭日地区、富来区を対象に、それらの地区における一般のウォーキングイベント参加者を対象にトレイルの持つ価値をアンケート評価した。まず、「世界農業遺産の維持・継承のための活動について、寄付やボランティアなどで支援したいと思いますか。」という問いかけに対し、およそ 80%の回答者が支援をしたいと答えた。そのうち、寄付を通じた支援を行っても良いと答えた人は 36.8%だったのに比べ、ボランティアを通じた支援を行っても良いと答えた人は、65.6%と、より多かった。ボランティアを通じた支援をしてもよいと答えた人は、ウォーキング参加者のおよそ 3 分の 2 であり、国東半島宇佐地域では、いろいろな形の農業遺産維持継承の取り組みが有用と考える。これにより、公的な支援のみでなく、利用者など便益を受けるものが支払う、あるいはボランティアという形で世界農業遺産の維持・継承のための活動にかかわっていくといった形など複数の取り組みを同時に行うことが、効果的な保全対策の策定であることが示された。

概要（小課題 2-2）

小課題 2-2 では、世界農業遺産の要素である生物多様性や農文化の保全活動支援として、「世界農業遺産 生物多様性・農文化保全基金」（仮称）を設定し、世界遺産認定地域を生息地とする生物多様性保全活動や農伝統・農文化保全活動等に対する非補助金型の支援策の検討を行う。これは、費用の一部を基金から支出することで、行政と市民が共同して保全活動を支援する新しい形での、市民参加型保全活動に資する。今回の調査から、ウォーキングイベントの際に、参加する人に、展示会のイベント手伝いなどを呼びかけるなどをしていくことで潜在的な協力が得られる人たちがおり、支援が可能ということが分かった。このことは、資金ではなく人を巻き込んでいくことで生み出されていく活力の方が有り難いという七島イ振興協会の事務局の方の話にもつながる。今回の調査で明らかになったボランティアの潜在的存在を今後世界農業遺産の維持・継承活動とマッチングさせていくことで、地域の活動に内外の人々を巻き込んでいけるだろう。今後、国東市がともに各団体との話し合いを設け、世界農業遺産の維持・継承のために検討が行われることが期待される。